企画展

伊勢崎藩を救え！ 天明３年浅間山大噴火

期間　６月16日（金）～８月27日（日）
　※月曜日・７月18日（火）は休館です
　※７月17日（祝）は開館します
時間　午前９時～午後５時
会場　赤堀歴史民俗資料館
入場料　無料

◀浅間山火山災害時に領民の救助・救済の指揮を執った関重嶷の肖像（伊勢崎市図書館蔵）

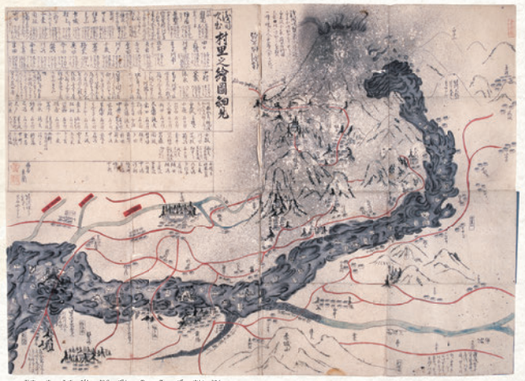
群馬県と長野県の県境に位置する浅間山は、これまでに幾度となく大規模な噴火を繰り返してきました。中でも、最も大きな被害が出たのは、天明３（1783）年の大噴火です。この災害は「天明の浅間焼け」とも呼ばれ、噴火とともに大規模な土石雪崩を引き起こしました。吾妻川から利根川沿岸の村々は泥流に埋め尽くされ、1,500人を超える命が失われました。

浅間山の噴火から泥流被害、そして二次災害により事態が深刻化する中、想像を超える災害に直面した伊勢崎藩はどのように対応し、この危機を乗り越えたのか。本企画展では、絵図や古文書、発掘調査成果などから伊勢崎藩と当時の人々の姿に迫ります。

また、この大災害から240年を経て、同じ場所で生きる現代の私たちが、災害の記憶を継承する機会として本企画展を開催します。

問い合わせ　赤堀歴史民俗資料館（☎63－0030）

▲享和以来見聞記附録雑集（伊勢崎市指定重要文化財・個人蔵）



▲浅間吹出村里之絵図細見（個人蔵・群馬県立歴史博物館画像提供）

歴史文化講座を開催します

企画展の開催に合わせて、専門家や市職員などによる江戸時代の浅間山噴火や伊勢崎藩についての講座を開催します。

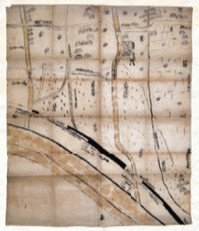
期日・演題・講師

- ６月25日（日）＝伊勢崎藩の善政と浅間山大噴火＝栗原佳さん（群馬県立高崎女子高等学校教諭）
- ７月９日（日）＝絵図からみた天明浅間山噴火被害の全体像＝関俊明さん（嬬恋郷土資料館長）
- ７月23日（日）＝関重嶷『沙降記』を読む＝相川裕保さん（相川考古館学芸員）
- ８月６日（日）＝発掘調査から見えた伊勢崎の泥流被害＝市図書館職員

時間　午後１時30分～３時

会場　赤堀公民館
定員　各50人（先着順）
参加料　無料
申し込み　６月９日（金）から直接または電話で赤堀歴史民俗資料館へ

▲浅間震旦記（伊勢崎市図書館蔵）



◀東上之宮村泥入絵図（個人蔵）

連載　伊勢崎藩を救え！天明３年浅間山大噴火

本号から５回にわたる連載で、企画展「伊勢崎藩を救え！天明３年浅間山大噴火」の見どころを紹介します。伊勢崎藩や伊勢崎の人々が浅間山の大噴火による災害をどのように乗り越えたのかを知り、ぜひ会場に足を運んでください。

第１回　江戸時代 浅間山大噴火

噴火を繰り返してきた浅間山

群馬県と長野県の県境に位置する浅間山は、これまで何度も噴火を繰り返してきた、今もなお活発な火山です。近年でも小規模噴火を繰り返しており、昭和48（1973）年の中規模噴火を記憶している人もいるのではないでしょうか。浅間山の噴火の中でも大規模な噴火となったのは、平安時代の天仁元（1108）年、鎌倉時代の弘安４（1281）年、江戸時代の天明３（1783）年の噴火で、特に天明３年の「浅間焼け」と呼ばれる大噴火では、最も大きな被害が出ました。

多くの被害をもたらした正体

天明３年の５月から噴火を始めた浅間山は、８月に入り大規模に噴火し、８月４日の夜から５日の早朝には最大規模の噴火とともに降灰・火砕流・溶岩流が発生しました。そして、５日の午前10時頃に浅間山北麓で発生した土石雪崩は麓の鎌原村（現嬬恋村）を埋め尽くし、477人もの村人の命を奪いました。この時助かったのは観音堂に避難した93人だけでした。

鎌原村を飲み込んだ土石雪崩は、そのまま吾妻川へ流れ込み「天明泥流」となって吾妻川から利根川を下り、流域の人や家屋、田畑、家畜など日常の全てを奪い去りました。吾妻川流域を中心に約1,500人が犠牲となり、前橋から伊勢崎の利根川流域でも家屋や田畑が飲み込まれました。江戸時代の浅間山火山災害で多くの被害をもたらした正体は、土石雪崩と「天明泥流」だったのです。

▲浅間焼吾妻川利根川泥押絵図（群馬県立歴史博物館蔵・同館画像提供）